

鎌倉市教育委員会 令和4年6月定例会会議録

○日時 令和4年(2022年)6月22日(水)
9時30分開会 10時41分閉会

○場所 鎌倉市役所本庁舎4階 402会議室

○出席委員 岩岡教育長、下平委員、朝比奈委員、長尾委員、林委員

○傍聴者 3人

○本日審議を行った案件

日程1 報告事項

- (1) 教育長報告
- (2) 部長報告
- (3) 課長等報告

ア 業務委託契約の締結に係る専決処分の報告について

イ 鎌倉市立小中学校における臨時休業に係る専決処分の報告について

ウ 行事予定

(令和4年(2022年)6月22日～令和4年(2022年)7月31日)

岩岡教育長

定足数に達したので、委員会は成立した。これより6月定例会を開会する。本日の会議録署名委員は長尾委員に依頼する。本日の議事日程は配付したとおりである。それでは日程に従い議事を進める。

1 報告事項

(1) 教育長報告

岩岡教育長

現在鎌倉市議会6月定例会が開催されているが、内容については教育文化財部長から報告をしてもらう。私からは学校訪問について報告をしたいと思う。

今年の学校訪問は一つコンセプトがあり、それは「私だけで行かない」ということである。学校現場のために仕事をしているのは私だけでなく、それこそ教育委員の皆様もそうであるし、事務局の職員一同も子どもたちのために日々頑張っている。事務局の仕事は、メールを打ったり、資料を作ったり、起案をしたり、積算資料を作ったりする等、事務作業が多いのだが、その事務作業の先に誰の笑顔を作っている

のか、どういうことが生じているのかを実際に見ることで、仕事のやりがいも出てくるし、仕事のアイデアも出てくると考えた。そこで、私と教育委員の他にも、事務局職員に誰でも参加可能であると声をかけて学校訪問をした。多い日は7人、8人で伺った日もあった。申し訳なかったと思うが、訪問した職員の中には初めて学校に行った職員もいて、やりがいを感じるといっていた職員もたくさんいたので非常によかった。

各学校を見てみると、眼前には様々な学校課題があるのだが、それに向き合いつつ子どもたちの未来のために新しい取組に向かっていく姿勢も見られた。

中学校では、新しい学習指導要領の本格実施が始まっており、思考力・判断力・表現力・知識技能を実際に活用して適用したり、そういった思考力・判断力を社会に向けて主体的に使っていこうとする等、知識技能・思考判断表現、主体的に学びに向かう姿勢の三つを育てていこうというのが新しい学習指導要領である。それを実現するために、三つの観点から各単元で身につけてほしい資質能力を整理し、あらかじめ子どもたちに示すことで学びの見通しを持ちながら教育活動を行い、その振り返りの場面で三つの観点から何を学んだのかをしっかりと振り返る。そうすることで、三つの観点から子どもたちの資質能力が育っていくのではないかと感じられた。また、三つの観点でバランスよく評価しようとする定期テストだけでは評価ができないということに気づき、定期テストをやめて、単元テストベースで評価をしていく取組に切り替えている中学校も見られている。今後、高校受験が変わっていくところもあるため、必要に迫られてやっている部分はあると思うが、授業改善につながるよう期待したい。

小学校においては、子どもたちを主体的に動かす授業はこれまでも行ってきたが、タブレット端末については、教員が指導するために使う道具から、子どもたちが学ぶために使う道具へと少しずつ変わってきていると感じた。ある小学校ではなかなか従来型の授業では座ってられない活動的な生徒がいたのだが、その生徒が何か静かに没頭して取り組んでいると思って見てみたところ、他の子どもたちは教科書を開いて紙でノートをとっていたのに対し、その生徒はタブレット端末を使って情報を整理しながら、自分で情報を取りにいたり、それを Google ドキュメントに整理したりする等、主体的に学ぶ姿が見られた。その生徒は、学習特性に合ったタブレット端末の使い方を見つけたからこそ授業に前向きに参加できるようになったのではないかと考えている。子どもたちの個性のある学習特性が、タブレット端末によって生かせるようになってきているのもよい点ではないかと考えているが、当然その取組に差があるのでしっかりと横に展開できるように引き続き取り組んでいきたいと考えている。

また、昨年から取り組んできたスクールコラボファンド等、いろいろなものが花開いてきている様子も見ることができた。例えばスクールコラボファンドでいうと、小坂小学校では昨年に引き続き課題解決型の授業に取り組んでいるのだが、昨年ほどどちらかというと世界のプラスチック問題やエネルギー問題等大きな課題に目を向けた活動だったのに対し、今年は学校に潜む課題、地域社会の課題、自分の身の回りに潜む課題等、より身近な課題を見つけ、探求活動を行っていく予定である。深沢中学校では、シチズンシップ教育という切り口でキャリア教育に取り組んでおり、自己認識だけでなく、社会の多様性、いろいろな市民社会の在り方等について、他者認識から自己認識を深めていくという矢印を働かせるために、NPO 法人とコラボレーションをしながら、性や社会についての多様性、デジタルシチズンシップのようなことも含め、多様なシチズンシップ教育の展開が始まっている。第一中学校では、防災教育を一生懸命行っており、さらに子どもたちの主体性を引き出す活動に進化させていくために、広告業界とタッグを組んで防災広告を作るという活動目標で探求していく新しい取組も始まっている。手広中学校では、子

どもたちのアウトプットの形をもっとたくさん作ってあげるために、IT企業と連携し、3Dプリンターを配置したり、高性能スペックのパソコンを置いてCADでモデリングしながら物を作っていく活動も始まったりしている。文化財部門については、大河ドラマに関連する企画展が鎌倉国宝館や鎌倉歴史文化交流館で開かれており、大河ドラマ館から多くの来館者にお越しいただいたり、生涯学習センターでも春夏秋冬鎌倉武で鎌倉の地域資源を生かした社会教育事業が行われたり、中央図書館では近代資料館が保有する鎌倉の古い写真を使った写真集を作成する事業が動き始めていたりする等、昨年仕込んだものが今実行フェーズに移ってきていることが見てとれる。教育委員の皆様におかれては、ぜひこれを見たいというものがあれば声をかけてもらったり、積極的に質問していただければと思う。来年に向けた仕込みも始まっていくので、一生懸命取り組んでいきたいと思っている。

林委員

5月24日に鎌倉市青少年問題協議会に出席した。その中でいろいろな話があったので、いくつか報告する。一点は、子ども若者育成プランの昨年度の推進状況について報告があった。いろいろあったが、一番印象に残ったのは居場所づくりの取組についてであり、青少年指導員から放課後かまくらっ子やジュニアリーダーズクラブ等、いろいろ企画を推進しているという報告があった。その中で、対象の小学生、中学生、高校生、大学生の参加がなかなかできておらず、これからどうしていけばよいかという話がでていた。学校教育の中での取組ではないため周知は難しいと思うが、皆で協力して周知を図っていければという話があった。中学生、高校生は部活や塾があり、気持ちがあってもその時間帯に参加できない、大学生は鎌倉市在住であっても大学が市外にあるためその時間帯に参加できない部分があり、皆で考えて取り組んでいこうという話があった。かまくらULTLAプログラムやジュニアリーダーズクラブ等、学校には通えていないが、そういったところに参加し、そこに参加している年下の子どもと関わりをもって生き生きしている姿も見受けられるという話があり、いろいろな立場で子どもたちをサポートする取組ができていのだと改めて感じた。スクールカウンセラーにも相談をして、連携を図っていければよいと思う。また、これから高校生を対象にアンケートを取ろうと計画しており、その項目についても検討を行った。

もう一点報告があり、6月14日に玉川大学の1年生が1日参観実習を各学校で行った。学校で教職を取るための授業を受けていても、現場のイメージができないまま難しい話を聞いてもなかなか自分の頭の中では結びつかないため、玉川大学は必ず大学1年生が1日教員の立場で参観実習を行っている。今回、初めて鎌倉で実施できないか打診があったため、校長会の会長である玉縄小学校長に相談をしたところ許可をもらうことができたので、6名の生徒が1日実習を行った。学校現場は忙しいのだが、1クラスずつ学生を受け入れてもらい、地域見学として一緒に外出をしてもらったり、給食指導はできないので一緒に給食を食べたり、落ち着かない子どもの対応をしたりと1日フル回転で実習をさせてもらった。学生も学校現場で学んだことをたくさん吸収できたので、今回のイメージをもって大学の授業を受けると「あの時のことだ」、「この時はこうすればよいのか」といったように、これからの自分の勉強に結びつけることができたので学校には非常に感謝している。教員を志望しているため、学生の視点は非常によく、先生たちの子どもに対する声かけや子どもたちの挨拶等よいところに気づいてくれた。これは校長をはじめ先生たちの動きがよかったからだと思っており、受け入れてもらったことはもちろん嬉しかったが、鎌倉の先生たちが頑張っている姿を見られたこともよかったと思っている。

長尾委員

私も大船小学校、腰越小学校、手広中学校の3校を訪問した。まず、第一印象としては、校長の話を通じて直接聞くことができる機会は非常に大事であると感じた。今年は3校しか訪問できなかったが、引き続き積極的に学校に行きたいと思っている。今回の訪問の中で、手広中学校ではSTEAM教育の現場を見せてもらったのだが、環境が非常に整っていることに驚いた。ただ、今はまだ環境だけであるため、ここから質をどうしていくのか、私にもできることがないかと自分に矢印を向けて少し立ち止まる機会となった。また、前から問題になっていた中学校給食の残食問題について、初めて私も中学校給食を食べたのだが非常においしかった。問題は味ではないということをお自身も感じたので、量や時間等ほかに解決できる問題があるのではないかと思う。現場を見る大切さを感じた機会であった。感謝する。

下平委員

私も第一小学校と第二中学校と腰越小学校の3校を訪問した。コロナ禍前はよく訪問させていただいていたが、この2年間は訪問できない状態であった。しかし、期間が空いたことで、学校というのは校長や先生たちの作っている雰囲気次第でその学校自体の空気感も変わるのだということを実感できた。建物は同じであっても、同じ小学校・中学校だとは思えないような、そんな体験をすることができた。主体的に学ぶ姿勢が大きなテーマになっているという話があったが、先生たちがそれを目指していろいろな工夫をしながら、子どもたちの心や思考を動かして発言させようとしているのがいろいろな場面から感じることができた。特に印象に残ったのが、ドラマの「おしん」の映像を見せて、小作人たちの苦しみを救っていく時代の流れのようなものについて、子どもたちが実際に考えて何を読み取ったかを発表させていたことである。あとは体育の授業でソーラン節をやっていたのだが、先生が指導するのではなく、指導者となるリーダーの子どもたちが、何が問題であってこれからは何に気をつけようという発言を一人一人する等、そういった働きかけを先生たちがしており、非常に活性化している姿を見ることができたと思う。

給食も久しぶりに食べたが本当においしく量もよかったと思う。長尾委員が発言されていたように、今何が原因で残食問題が起こっているのかということを考えていけたらよいと思う。特に中学生の女性となると、そろそろ周りの目も気になる頃で、隣の子がもう食べないといってダイエットのようなことをすると、私もやめておこうと思えばご飯のロスが起こってしまう。そのあたりも含め、実際に子どもたちの声を聞いて、無駄なく給食提供ができればよいと思う。久しぶりに子どもたちの笑顔に出会えて私達もエネルギーをもらえた時間だったと思う。

岩岡教育長

残食の話については、ちょうど今子どもたちにアンケートをとって集計中となっているので、どういった思いを持っているのか、よく見ながら対策を練っていきたいと思う。

朝比奈委員

皆様と同じように学校訪問は本当に久しぶりであり、御成中学校、御成小学校、稲村ヶ崎小学校の3校であった。皆様ご承知のとおり、以前にお伺いしたときよりも設備がいろいろと整っており、このご時世にこういった対応ができたことについて感謝する。インターネット環境であったり、御手洗も一通りよ

くなっていたのだが、何よりも驚いたのが、空調が一般教室であっても全てきちんと整っていたことで、ロスナイ換気扇があったりもした。公立校というのはそういったものが遅れがちという認識があったのだが、そのあたりは非常に環境が豊かになっていたのも、夏の暑い時期でもきっと過ごせるだろうと感じた。それぞれの学校の個性というのは先生の資質によるものだと思う。特に校長のキャラクターがその学校に反映されていると感じた。

給食を食べたのは御成小学校であったが、これはコロナ禍であるため望むべくもないのだが、できれば教室に行って子どもたちと一緒に食べることができると、給食の様子、子どもたちがどのように食べているのか、足りているのかそうでないのか、今日の献立にどういう印象を持って食べているのか等、観察することができる。今までは一緒に給食を食べることでそういったことができたのだが、今後またできるようになればよいと思う。いずれにせよ、食事をとるということについて、いろいろなカリキュラムの都合で十分に時間がとれない状況というのはどうなのかと感じるところである。ファストフードでただお腹を満たすことが習慣になっているせいかもしれないが、必要があって食事をとるということについて、学ぶべきところももっとあるはずなのに、時間に追われて食べていたというのが数年前に立ち会ったときの印象であった。この前は伺うことができなかったので、今はどうなっているのか知りたい。いずれにせよ、3校だけではあったが数年ぶりに伺うことができ、同じ学校かどうか記憶が定かではないが、以前はもっと教室が散らかっていたと思う。廊下を見ても掲示物が剥がれ

かかっていたり、廊下にぶらさがっているバック等が落ちたりしている状態であった。あとはゴミ箱もきちんと分類されているかどうか分からないような状態、投げて入れようとして外れたゴミが落ちていたり、後ろのロッカーの棚の中身が外にはみ出していたりして見苦しいという印象をもっていたが、少なくとも今回私が訪問した3校に関してはそのようなことはなかった。何か転機があったのか、コロナ禍で見直しのチャンスがあったように感じた。

岩岡教育長

教育委員の皆様の目から見た学校の姿を聞くことができよかったですと思う。

林委員

先ほどは学校訪問の話ができなかったので補足する。自分の立場上、経験上なるべく多くの学校をと思い、半分以上の学校を訪問した。その中で、管理職に関わらずリーダーがいて、リーダーそれぞれの分掌にしても何にしても、リーダーが動くことによって学校が変わると実感した。空気、雰囲気が変わったというのはそこかと思う。校長が一人で頑張らずとも、それぞれの先生、リーダーが一つの目標に向かって頑張ってくればよい学校ができるのではないかと実感した。嬉しかったのは、私は腰越小学校にもいたのだが、当時作った卒業制作がまだ残っており、行事のときには飾ってくれているという話を聞き、非常に感動した。

岩岡教育長

学校にミドルリーダーがいるというのは本当に心強いと思う。スクールラボファンドの取組もそうであるが、新しい取組がぱっと花開くときは、校長は自分が授業できるわけではないので、誰がやるのかというところからまず考えると思う。そのときに、やりたい、こういうことやってみたいと思う中核的な

先生がいるかどうかが学校経営の重要なポイントであると改めて感じた。管理職の育成もそうであるが、ミドルリーダーの育成もしっかりやっていきたいと思う。

(2) 部長報告

教育文化財部長

市議会 6 月定例会の概要について報告する。市議会 6 月定例会については、6 月 8 日から 28 日までの 21 日間ということで現在会期中である。一般質問について、教育文化財部関連は 22 人中 10 名であった。今回の 6 月定例会は市議会の役員選挙があり、選挙の結果、2 名については一般質問の取下げがあったので教育関係は 10 名から質問を受けたところである。

まず久坂議員からは、神奈川県立藤沢養護学校に通っている生徒に関連する「移動支援について」の質問があった。藤沢の養護学校という事情からバスに乗っている時間は 1 時間以内というように通学時間が決められているのだが、藤沢から鎌倉に来るバスの乗降場所のポイントが決められており、そこに自宅から通うのが難しいため支援をお願いできないかという質問であった。

続いて竹田議員からは、「教員の未配置問題の解消について」ということで教員不足の質問、また、「子どもの権利条約の視点でみた市の施策について」ということでヤングケアラーに関連した質問、そして「小中学校の学習環境整備等について」ということで、今回校庭の凸凹している状況について質問を受けた。

続いて松中議員からは、「最近の地震多発での警戒について」という中で、第一中学校の崖に関する工事の進捗状況について質問を受けた。

続いて長嶋議員からは、「マスク依存症について」ということで、マスクが外せないような状況になっているということ、学校の事情について質問を受けた。

志田議員からは、「新型コロナウイルス感染症対策対応地方創生臨時交付金について」ということで、物価高等に対応して国が交付金を出すこととなったのだが、給食の食材が調味料等も含めて高騰している状況であり、この交付金の対象事業となるので、それについて市として、教育委員会として対応していくのかという質問であった。あとは「市立中学校通学区域について」、最後に植木小学校ができて学区を定めて以降、特段大きな見直しをしていない中で、人口の減少等さまざまな変化がある中で、学区の見直しが必要なのではないかという質問を受けた。

日向議員からは、「通学路の安全安心について」ということで、通学路の危険は学校と保護者が中心となって見ているのだが、子どもの視点で見たときに大人にはない危険性が出てくる可能性があるので、子どもの視点を踏まえた安全点検が必要なのではないかという質問であった。

千議員からは、「指定管理について」ということで、今回の生涯学習センターの指定管理者制度の導入に関連して、指定管理制度が必要なのかどうかという質問であった。

納所議員からは、「環境教育及びカーボンニュートラル達成に向けた学校施設の ZEB 化の推進について」ということで、環境にやさしい学校施設作り、SDGs 等で取り組んでいる学校教育について質問を受けた。もう 1 点は、「物価高騰等に対する学校給食費の取扱いについて」ということで、先ほどの志田議員と同様の交付金の取扱いについての質問であった。

出田議員からは、今年度開催する「令和4年度第21回かまくら子ども議会について」、教育委員会の考え方についての質問であった。

井上議員からは、「小学校給食について」ということで、アレルギー、牛乳についての取扱いの質問と、「子どものマスクのリスクについて」、先ほどの長嶋議員と同様にマスクがなかなか取り外せないということと、基本的には熱中症対策を中心としてマスクを外していくという国の動向もあるので、そういった中での学校における取扱いについての質問、そして「かまくらプラごみゼロ宣言と子どもへの環境教育について」ということで、学校の教材がプラスチックを使っている状況もあるので、そういったことに対する質問を受けた。

続いて、6月15日に開催された教育福祉常任委員会については、議案3件、報告事項1件、陳情20件という状況であった。

まず議案については、後ほど課長等報告でも説明するが、「業務委託契約の締結について」ということで、先ほど朝比奈委員から普通教室にエアコンが入ったという話があったが、この業務委託契約については、それに加えて特別教室、理科室や技術・家庭科室等を含め、大船中学校を除く24校について今年度中に実施していくため、入札等が終わったので急遽議会に追加させていただいた案件である。これについては総員の賛成を得られたところである。2点目が生涯学習センターの「指定管理者の指定について」ということで、これについては賛成多数を得られたところである。3点目が「令和4年度一般会計補正予算（第3号：ICT教育環境整備事業等）」について、これは指定管理の金額も入っており、補正予算については総務常任委員会が所管の常任委員会になるが、教育福祉常任委員会での予備審査が行われ、総務常任委員会への意見送付なしということになった。

続いて、報告事項では「工事請負契約の変更について」ということで1点説明をした。大町の釈迦堂の工事について、工事に伴い資材を上げるためのモノレールの位置を弱冠変えるということ、契約変更が必要になったので教育福祉常任委員会に報告させていただいた。実態の問題としては契約の変更行為については、総務常任委員会の所管となる。

続いて、陳情については、20本のうち今回新しく出てきたもので「鎌倉生涯学習センター指定議案に関して選定された事業者の法令遵守体制を検証することを求める陳情」については、今回指定管理者として指定する事業者の過去の事故、そういったところを踏まえ安全対策をしっかりと検証して指定するべきではないかという陳情である。これまでも指定管理の選定委員会の中で、そういった部分については十分配慮した評価基準を設けてさまざまな部分を確認し、事業者においても風化させない取組をしている状況であると答弁し、最終的には不採択という取扱いになった。続いて、「子ども達のマスク着用による熱中症対策及び、感染症対策ガイドラインのアップデートを求める陳情」ということで、一般質問の中でも出てきたが、子どもたちのマスクと熱中症との関連性についての陳情であった。教育委員会としては6月8日付で各学校及び保護者向けにも通知をしているところである。その後、6月10日付で国から再度通知が発出されたので、教育委員会としては通知の出し直し、そして校長会を通じて学校でも徹底した取組を行っていくと報告をした。これについては状況が変化していくので、継続審査案件ということになった。そして、残りの18本の陳情については、これは令和3年度（2021年度）中に出された陳情であり、具体的には再議のときにこの教育委員会でも議論いただいたものである。3月の臨時会の際に生涯学習センターの利用区分に関連した陳情が18本出ており、これについて今回の6月市議会で審査をいただいたところである。内容としては3月の臨時会で再議を認めていただいているので議決不要

という取扱いになっている。

続いて、6月20日に開催された総務常任委員会について、「令和4年度一般会計補正予算（第3号：ICT教育環境整備事業等）について」と大町釈迦堂の「工事請負契約の変更について」の2本が案件となっており、「令和4年度一般会計補正予算（第3号：ICT教育環境整備事業等）について」は賛成少数ということで否決となっている。「工事請負契約の変更について」は総員賛成をいただいたところである。

あとは6月28日開催予定の本会議にて全ての議案が議決されることになるので、その最終日の市議会の議決をもって対応していきたいと思う。

(3) 課長等報告

ア 業務委託契約の締結に係る専決処分の報告について

岩岡教育長

次に課長等報告に移る。報告事項のア「業務委託契約の締結に係る専決処分の報告について」、報告をお願いします。

学校施設課長

報告事項ア「業務委託契約の締結に係る専決処分の報告について」報告する。本件は、本来教育委員会に諮るべき事案について、議案を提案する時間的余裕がなかったことから、鎌倉市教育委員会事務の教育長への委任等に関する規則第2条第2項の規定に基づき、教育長による専決処分をもって、その事務を代理したことの報告をするものである。議案集の1ページから12ページを参照願いたい。今回の専決処分は、鎌倉市立小・中学校冷暖房設備設置業務委託の契約締結に関するものである。この業務委託の受注者選定にあたり、一般競争入札を実施し、令和4年（2022年）6月7日に開札、同8日に仮契約を締結した。

契約金額が1億5000万円以上の製造の請負であり、本契約に際しては、鎌倉市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定により、市議会の議決に付す必要があるが、この委託業務を令和4年度（2022年度）中に完了させるためには早急な業務着手が必要であり市議会の議案作成に当たっては、教育委員会に諮る必要があったが、時間的余裕がなかったことから、教育長がその事務を臨時に代理した上で、開会中の市議会6月定例会に議案を提案したものである。それでは契約内容について説明する。受注者は株式会社21設計、契約金額は20億9770万円で、契約期間は仮契約の期間を含め、令和4年（2022年）6月8日から令和5年（2023年）3月31日までである。本業務は特別教室等に冷暖房設備を設置するため、工事に関する調査、設計、積算、施工、管理等の一切の業務を一時業者に一括して委託する手法により実施するものである。また、本業務の対象は、既に冷暖房設備を設置している大船中学校を除く小中学校24校の理科室、家庭科室、図工室等の専科教室や視聴覚室、少人数教室等の主に児童生徒が学習等に利用する教室を予定している。施工に当たっては児童生徒の安全性を確保し、学習環境に十分配慮しながら万全の体制で取り組む。最後に、今後の手続きについては6月28日の市議会本会議にて議決を得られたときは、仮契約書が本契約書に自動的に切り替わる。

(質問・意見)

岩岡教育長

特別教室への空調設備の配置については、何度も教育委員会で議論してもらい今回の契約に至っている。今、半導体不足等もありエアコンの確保ができるのか、受注者が本当に出てきてくれるのか本当に心配していたが、学校施設や地下鉄等の公共施設における空調等に実績のある会社から応札があったということで大変よかったと思っている。

下平委員

今回の受注者は株式会社 21 設計ということだが、過去に鎌倉市の学校の施設設備等に協力をしてくれた会社なのか。

学校施設課長

普通教室のエアコンの設計、あとは施工の工事監理を受注している会社である。

(報告事項アは了承された)

イ 鎌倉市立小中学校における臨時休業に係る専決処分の報告について

岩岡教育長

次に報告事項のイ「鎌倉市立小中学校における臨時休業に係る専決処分の報告について」、報告をお願いする。

学務課担当課長

報告事項イ「鎌倉市立小中学校における臨時休業に係る専決処分の報告について」報告する。本件については、本来教育委員会の会議に提案すべき事項であるが、急を要することから、会議に提案する時間的余裕がないため、鎌倉市教育委員会事務の教育長への委任等に関する規則第 2 条第 2 項の規定に基づき、教育長による専決処分をもってその事務を代理したことを報告するものである。議案書の 13 ページを参照願いたい。本件臨時休業につきましては、2 月、3 月及び 5 月定例会においても専決処分の報告を行った。その後、鎌倉市立小中学校における新型コロナウイルス感染症の感染状況は減少傾向にはあるものの、依然として学校学級単位で複数名の陽性者が発生する事例が見受けられている。このため教育委員会では学校長からの陽性報告を受け、協議を重ね、随時、学校保健安全法第 20 条の規定に則り臨時休業をすべきと判断し、令和 4 年（2022 年）5 月 23 日から同 5 月 26 日までの間に 2 回鎌倉市教育委員会教育長による専決処分を行ったところである。次に専決処分の内容について報告する。臨時休業の実施状況は 14 ページ、「令和 4 年臨時休業実施状況」のとおりである。子どもたちの人権に配慮する必要があるため、これまでと同様に学校名及び学年は公開しない方針としている。なお、全ての学校において休業に係る消毒については教職員が実施をしている。

(質問・意見)

岩岡教育長

人数自体は、1日に何十人という報告があったときに比べるとかなり少なくなっている状況であるが、引き続きオミクロン株の感染力が強いということは変わらないので、1人感染者が出ると複数名出してしまう状況である。子どもたちには一刻も早く感染対策のない学校生活を送らせてあげたいところではあるが、こういう状況も継続しているということの報告であった。

(報告事項イは了承された)

ウ 行事予定

(令和4年(2022年)6月22日～令和4年(2022年)7月31日)

岩岡教育長

次に報告事項のウ「行事予定」について、記載の行事予定で特に伝えたい行事等があれば報告をお願いする。

教育文化財部次長兼教育総務課長

学校教育と社会教育について紹介する。まず、議案集15ページの2番について、かまくら子ども議会を7月28日の木曜日に開催する。令和4年度(2022年度)については、小学校10校、中学校8校から選出された子ども議員が参加し、質疑を行う予定である。教育委員の皆様には、改めて傍聴のご案内の連絡をするのでよろしくお願いする。

次に、議案集16ページの18番と19番、稲村ガ崎小学校及び今泉小学校において元鎌倉市教職員と学生ボランティアの協力を得て、夏の学習教室を実施する。なお、8月には手広中学校においても実施する予定である。また、13番の教師力向上研修会については、下平委員に講師を依頼しているのでよろしくお願いする。

教育文化財部次長兼生涯学習課担当課長

博物館の取組について紹介する。議案集は17ページ、29番、30番を参照願いたい。29番の鎌倉歴史文化交流館では企画展「北条氏展 vol. 3 北条義時とその時代」を開催する。こちらについては承久の乱に関わる歴史資料や高野山に伝わる歴史資料が初出展となる。また、北条義時の生きた激動の時代を見つめながら、武家政権の確立したあの時代に迫っていきたいと思う。もう一つの展示は鎌倉国宝館である。こちらについても同じく北条義時とその時代であるが、副題として義時と頼朝・頼家となっている。こちらの展示では源頼朝と頼家2人の鎌倉殿を主軸として、武士たちがどのような美を愛で、またどのような神仏に祈りを込めたか、その時代の資料から鎌倉の美意識を学びたいと思う。こちらの期間については7月2日からとなっており、ちょうど学校の夏休みに当たることから、大河ドラマ館と連名で小・中学校に案内を差し上げたいと考えている。

(質問・意見)

下平委員

ただいま13番で紹介いただいたように、この夏も先生方を対象にコミュニケーション能力についての研修をする。それとは別に、教育委員会の企画ではないのだが、6月16日の夜に鎌倉市とケアマネジャー連絡協議会との共催による、ケアマネジャーと支援者が対象の研修会を深沢行政センターで3時間ほどやった。今までケアマネジャーの方、それから支援に当たる方々のそういった研修があまりなかったということなので、非常に喜んでいただいたと思う。予想を超える60人以上の方々に参加していただいた。そこでテーマにしたのが、自分の心を守り、他人の心に応える寄り添える支援というテーマで話をした。最近、特に新型コロナウイルスの影響もあり、自粛生活で私たちの誰もが人間の心の栄養素が不良状態になっていると思う。心の栄養不良が起こると、人間の葛藤、インパスというのだが、心が非常に複雑なゆえに本音と建前が自分の中で葛藤したり、理想と現実が葛藤したり、自分と其他人との葛藤というのが非常に表面化してくる。岩岡教育長がいつも学校教育というのは未来を作る仕事であるといっているが、未来を担う子どもたちを育てているという夢があるのだが、高齢者支援となると、支援を受ける側も未来や体に不安がある状態、家族も未来があまり見えない状態で支援をしていくので非常に過酷な状況の中にあると思う。ハラスメントに晒されることもあるとのことで、支援に当たる方々が非常に苦しんでいるということを今回実感した。教育もそうであるが、支援にあたる人たち自身が健康でなければ、健康な笑顔やエネルギーを届けられない。これからは学校教育においてもまずは自分自身を大事にする、自分自身が健康なことが何よりも相手にプラスのエネルギーを送ることにつながる、活性化につながるのだということを、教育センターの研修の中で伝えたい。できるだけ多くの先生に参加してもらい、持ち帰っていただければありがたいと思っている。

岩岡教育長

下平委員には、鎌倉市の教育委員会や市役所の研修等で、専門性を生かした力をいつも発揮していただいている。長尾委員も朝比奈委員も林委員もそれぞれの特性を生かして活動していただいている。このように実際に動いてくださる教育委員がいるというのは全国の教育委員会運営の中でもなかなか珍しいのではないかと感じており、非常に感謝する。

私も驚いたのが「情報教育研修会」の講師が本市の小学校の教頭となっており、自ら講師をやるのは非常によいことであると思う。外から来てもらって初めて実践が開いていく、外部の刺激というところから、中で実践を作っている人から刺激を与えていく、内部からちゃんと刺激を起こせる状態になったのはすごくよいことだと考えている。

長尾委員

非常にたくさん行事があるのが、研究会やイベントの参加者数や、その主管の方が感じられた所感等、そういったものを私どもに共有してもらえる場があるのか、報告してもらおうことができるのか一つ聞きたいと思う。いつも行事予定を見させてもらい素晴らしいと思うのだが、これがどのような結果になったのかわからない。毎月見させてもらっているが、コメントができないと考えていた。あとは後半の方にあるものと連動するのだが、「あかちゃんと楽しむおはなしかい」のようなものを非常にたくさん企画

しているが、産後鬱の問題について、鎌倉市のこういった取組の中でどのぐらい参加者がいてどのような形で皆様がそういった気持ちを解消できるのか、その数字から少し読み取れないかと感じていたので、結果の共有や報告が可能かどうか、手間かとは思いますがそこについて質問したい。

教育文化財部次長兼教育総務課長

今回の行事予定にあがっていた中央図書館のイベントについては、次回の教育委員会において、参加者の内容やそのあたりの感想等について報告できるような形で調整する。行事予定についても、ピックアップした中で話題のあるものはなるべく報告できるような形で調整をさせていただければと思う。

岩岡教育長

教育センター主催の研修については、教育センターだよりの中で今年の研修はこんなことをやった、教員からこういう声があったということを毎年まとめているので、それについては教育委員の皆様にも配付する。生涯学習課のやっているセミナー等については、参加人数や感想をまとめたものを発行しているのかどうか、今担当がいないのでわからないが、確認して検討する。

下平委員

「おひざにだっこのおはなしかい」やほかの読み聞かせの会等、そういうのは過去に見学させていただいたこともある。希望があれば実際に体験するのもよいと思う。コロナ禍であまり積極的にそういうことがいえなかった部分もあるが、実際に見てみると本当に楽しくて意義が感じられると思う。

岩岡教育長

ぜひ長尾委員にも読み聞かせの朗読者として参加してもらおうことができると思うので、よろしく願います。

(行事予定報告はそれぞれ了承された)

岩岡教育長

本日の会議日程は全て終了したが、もし教育委員の皆様から最近気になっていること等があればお願いしたいと思う。

下平委員

最近ニュースやワイドショー等で盛んに話題になっているのがさんぼセルの問題である。教科書に加え、タブレットも加わったので5キロぐらいのランドセルを小学生が背負っている状況である。そこで小学生が協力を得ながら自ら開発し、キャリアタイプのさんぼセルというものが出て話題になっているのだが、賛否両論渦巻いてるようである。これだけ話題になっているので近い将来に鎌倉市でも保護者からいろいろ問い合わせ等が来ると思うが、児童が皆あれを引きずって登校することをイメージすると、鎌倉の交通事情もあったり学校によっては通学路もあったりするので、手を離れたときのことを考える

と怖いと思う。子どもたちがじゃれあったりすることを考えると不安もある。そのあたりのことについて、鎌倉市としてどのように対応するのか事前に考えておいていただけると、いざ質問があったときに明確に回答できると思うのだが、何かそういった話は出ているか。

岩岡教育長

教育委員会事務局の中では、まださんぼセルについての具体的な議論があがっていない。元学校の校長ということで、教育文化財部次長に伺いたい。さんぼセルを使いたいという声が保護者からあがった場合の対応について、もし思いつくことがあれば願います。

教育文化財部次長

私もテレビの報道を見てすごいことを考える小学生がいるのだなと思い、その発想自体はすごくよいと思ったのだが、下平委員がいったように、それが全員となると、何百人もの子どもたちがあれを引きずって歩いたときの安全性の確保に関しては保てない、個人的には否定する可能性が高いものになってしまうと思う。

もう一つ、ランドセルの利点は両手が空くということである。小学生低学年はよく転ぶ、登下校中に転んで顔を打って保健室に運ばれるようなケースがあるので、個々の安全面を考えたときにランドセルは両手が空くという利点はとても大きい。学期末の時期、そろそろ荷物を持ち帰る季節になってくるので、そうするとランドセルを背負って手提袋やプランターを持ち帰るケースもあるのだが、そういったときにガラガラと引きずって片手がふさがってしまうのは危険度も増すと思う。そこについてはかなり議論が必要になると思うので、校長会とも連携しながら検討していきたい。

岩岡教育長

そもそもランドセルの中身自体を軽くする議論が必要である。家庭学習等の観点考えたときに教科書の持ち帰りを進めていると思うのだが、これはデジタル教科書の議論と大きく関わっていると思う。デジタル教科書がどのような形になるのか、紙が残るにしても、教科書のデジタルコピーが各児童に配付されるような状態になれば、子どもたちが教科書を持ち帰る必要性がなくなる。そのようなことも含め、子どもたちの負担軽減について議論が行われるとよいと思っている。

長尾委員

私の娘も6年生になるが、本当に5キロ以上の荷物である。実は今偏頭痛持ちになってしまい通院をしなくてはならない少し特殊な状況であるが、本当に子どもたちの負担であると思う。持って帰ったとしても勉強しないので学校への置き勉推奨と、プリント等はタブレットを使った宿題のようなものでどうにかならないかという話を先生にしたところである。

1点質問になるのだが、スクールコラボファンドについて先ほど教育長からもいくつか活用事例を聞かせていただいたが、消化率について、今年度のコラボファンドの総額がいくらで、今どのくらいどういう形で確定しているのか。もしまだ余裕があって学校側に働きかけをするのかどうか、そのあたりについて聞きたい。

教育文化財部次長兼教育総務課長

今年度からガイドラインを作成し、各学校に活用したいものが何かあるか確認している状況であり、先ほど岩岡教育長から話があったように3校から申し出がきている。スクールコラボファンド、ガバメントクラウドファンディングで寄付を集めた金額が1200万円ほどであり、昨年も100万円ほど活用した。予算的にはまだ活用できる部分があるので、2学期以降も募集をし、応募があれば活用をしていきたい。

岩岡教育長

各学校新しい取組を始めてそれを継続したいという気持ちが出てくるので、その単年度で使い切ってしまうと来年度同様の取組ができない恐れもあるので、そういう意味で余裕を持たせた執行計画を立てている。今年度はフルという形、教育課程の企画から実施まで全体を1年間伴走してもらうタイプは3件を前提に考えており、その3件は埋まっている状況である。

もう一つの類型で、教育課程の企画自体はもう先生がいるのだが、伴走の支援の部分をお願いするミニというタイプ、1件5万円ぐらいを上限ということで今年度に立ち上げた。初めてということもあり、1学期から子どもたちが何をやりたいのかという願いがなかなか見えてこない部分があり、第1弾の締切ではミニはまだあがってきていない。第2弾の締切は夏休み中に設定しているので、1学期が終わって子どもたちの様子を振り返りながら、先生たちからミニの要望があがってくるとよいと思っている。以上が現時点の情報の補足である。

林委員

ミニについて、自分の教員の経験の中でも、もし当時ミニがあればあんなことができたのではないかという思いがある。研究絡みで行っている学校で先生たちの思いを聞いていて、それにミニを使えるのではないかと話をしたらきょとんという顔をしていることがまだある。学校への周知、校長会等を通していただいて周知できるものであるし、学習の年間計画の中で、総合や理科、各教科で1年間を通して身につけさせたいものができているはずである。その中で、これを使えるのではないかというものは、本来は1学期中に決まっていると思う。もう1回声がけをすることで、これでミニを使いたい、この先生を呼べるのではないかということに各学校が気付くのではないかと思う。今年度は「学校グランドデザイン」を考えたり年間計画を考えたりするために、学校が始まるのが遅くなるということを教育委員会から保護者に知らせている状況であり、計画もできているはずなのでもう1回声がけをすると出てくるのではないかと思う。

岩岡教育長

7月4日に定例の校長会があるのでそこで改めて声がけできるように、第2弾の締切が7月末ぐらいで検討の時間は十分にあると思うので、もう一度声がけをしたいと思う。

これをもって6月定例会を閉会する。